

文・写真 夏原 由博(会長)

保全協会では、里地里山の開発を防ぐために土地の寄贈を受けて保全するトラスト活動を行っています。特に遺産相続に伴って売却され開発される事例が見られます。寄贈いただいた土地に隣接した土地も別荘開発が進められた経緯があります。このトラスト第1号が三重県伊賀市青山羽根の山林です。この土地は会員の父親が購入された土地を2010年に寄贈いただいたものです。元々は放牧地であったところで、植生遷移が進んで二次林になっています。樹木は、アカマツ、ソヨゴ、アラカシ、コナラ、ソヨゴ、リョウブ、ヒサカキ、コパノミツバツツジなどです。特筆すべきは、この二次林の中に湿地が3ヶ所点在し、レッドリスト記載種やミミカキグサやミズゴケなど貴重な湿性植物が生育していることです。現在は保全協会のトラスト委員会が年2回ほど訪れて、希少種の調査や倒木の除去、草刈りなどの管理を行っています。2023年に環境省が民間や地方公共団体の土地を自然保護区と認定する自然共生サイトの制度を設けました。保全協会は羽根の森を自然共生サイトに申請し、承認されました。



上空から見た羽根の森。中央やや下が湿地



湿地に生育するミミカキグサ

④8 大和葛城山（奈良県御所市～大阪府千早赤阪村）

文・写真 木村 進(理事)

金剛山の北側に位置し標高は959m。春に山頂一面にツツジが咲くことで有名。ヤマツツジが多いが、ミヤコツツジ・コパノミツバツツジ・モチツツジなどが混生している。以前は草丈の高い笹原（カツラギザサ）で1970年に一斉開花でササが枯れ、ツツジが成長して置き換わったものである。現在は伸びてくるササを刈り取ってツツジを守る必要がある。初任の高校は毎年春に葛城登山をしたが、登山道に咲くキバナイカリソウやカタクリなどが印象に残っている。夏～秋にはフシグロセンノウが咲き、山頂の草原でカワラナデシコ・リンドウ・センブリなどを見ることができる。

また、山頂より少し下った葛城天神社には大阪府周辺では4ヶ所にしかない夏緑樹林のブナ林があり、イヌブナ・アカシデ・コハウチワカエデなどの他、ミズナラも生育していた。ミズナラは金剛山以外にはわずかしがなく、大和葛城のものは貴重であったが、2016年には大きな木がナラ枯れで枯死してしまった。ところが、今年5月に保全協会に、神社近くで育つミズナラの若木を保全できないかとの電話があり、御所市に連絡を取り保全していただけることになった。

ナラ枯れで枯死したミズナラ
(2016.9.11)林縁に咲くフシグロセンノウ
(2016.9.11)